

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. C-39

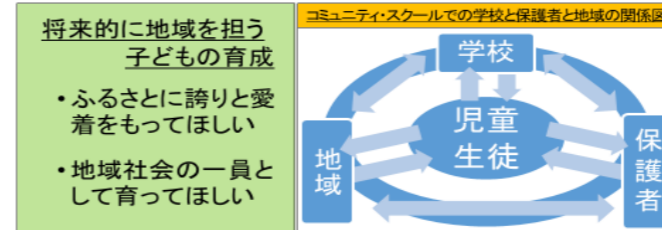
<b>部門名：</b> 地域とともにある学校実践部門	<b>エントリー名：</b> 岐阜市立岐阜小学校
<b>活動名：</b> C Tと学び合う社会科授業 ～社会とつながる岐阜小校区の児童～	
<b>解決すべき課題：</b> 岐阜小学校は、県都中心部の伝統校統合による平成20年度の開校以来、地域や家庭との「連携・協働プログラム」を開発し、先駆的な実践を進めてきたコミュニティ・スクール（以下CS 図表①）である。現在、持続可能な「地域創造型」の学校への進化・発展を目指している。そこで、学習指導要領改定に伴い、CSとしての <b>社会科授業の創造</b> を本校の解決すべき喫緊の課題と考え、その視点を次のように定めた。 ・ 人的・物的財産の効果的な活用（地域のよさを生かした教材化や単元構成 図表②） ・ 地域の方々の立場からも考える追究（社会的事象の見方・考え方を働かせる学習活動 図表③） ・ 社会的事象を「自分のこと」と捉える地域との関連（社会科の「主体的・対話的で深い学び」）	
<b>目標・方針：</b> 城下町と官公街からなる校区をはじめ、岐阜市、岐阜県、日本への愛着や誇りをもつとともに、社会的事象を「自分のこと」として捉え、よりよい社会の実現を目指す子が育つように、地域素材を教材として開発し、コミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師、以下CT）と共に考え、学び合う <b>社会科の授業改革</b> を目標とする。 よりよい社会の実現を目指す子を「自分が社会とつながって社会を動かしていく子」（図表④、⑤）と考え、必要な要素を整理した。その上で、発達段階や学習内容に応じて、子供たちが「自分が社会を動かす」実感を得られるように、地域と関わらなから選択・判断できる学習を進めるなど、 <b>研究授業を積み上げる</b> ことにした。	
<b>活動内容：</b> 地域の各種団体、寺院、商店、施設、官庁等からCTを招き、文化、歴史、自然、産業等の各方面からの話を聞いたり、CTへの取材活動をしたりして、自分たちの選択・判断等を発表していく <b>社会科学習の展開</b> 。 (1) 平成30年度 小学校社会科全国大会プレ大会（岐阜県大会）の実践（写真①） (2) 平成30年度後期 全校研究授業の実践 (3) 令和元年度前期 全校研究授業の実践（写真②） (4) 第57回「全国小学校社会科研究協議会研究大会」岐阜大会の実践（写真③、④） この全国大会では、3年生は鮎菓子を作る和菓子店、4年生が長良川の洪水に備える水防団、5年生は情報を生かす観光産業としての老舗旅館（長良川温泉組合）、織田信長の天下統一を学ぶ6年生は校区にある市の歴史博物館等から、それぞれCTを招いた授業を公開した。	
<b>活動の成果：</b> 子どもたちは、社会科の単元終了後にも、学びを生かして地域のために進んで活動したり、社会に向けて発信や提案をしたりすることができるようになった（写真⑤）。それは、地域教材を生かして、子どもの意識が連続する単元構成としたことで、子どもたちが見通しをもちながら、主体的かつ多角的に学ぶことができるようになったからだ。その結果、社会的事象を「自分のこと」として考えることができるようになり、地域活動への積極的な参加が見られるなど、社会の実現を目指そうとする姿につながったと言える。 また、CTとの活動やCTへの発信をする中で、問い返しや切り返しを受けたときにも、既習内容や資料を根拠に、堂々と受け答えをすることができるようになってきた。それは、社会への関わり方を考える場などで、様々な立場に立って社会のことを考えられる姿につながったからだ。とらえている。 さらに、CTのもつ専門的な知識・技能によって、学習が質的に深まったり補完されたりだけでなく、CT自身も学習サポーター、ボランティア・スタッフとして、「地域の学校に貢献できた」や「学校教育に役立っている」とやりがいを感じて元気になっており、今まで以上に地域への愛着や誇りを高めることにつながっていると思われる。	
<b>アピールポイント（アイデアや工夫）：</b> ・ 歴史と伝統、文化、人材など、恵まれた地域の特色を最大限に活用した社会科の実践 ・ 清流「長良川」の特長を生かし、岐阜市、岐阜県、日本の産業や防災を学ぶ社会科の教材開発 ・ CS先進校としての「ふるさと学習」をもとに、公民的資質を高める学びへと発展させた社会科学習 ・ 「学校支援・地域活用型」から「地域創造型」へと地域活性化につながるCSの進化・発展 ・ 社会科の学習を生かした社会への発信（市長への直接プレゼンや防災「こどもサミット」のパネリスト）	

<写真、図表添付欄>

**岐阜小学校 ～こんな子どもを育てたい～**

**地域の願いから ～地域と共に育つ学校～**

地域の現状・・・少子高齢化（高齢化率の高い地域）  
 まちづくり委員会や各種団体による地域活性化



**強力な地域のバックアップ**

【図表①：岐阜小学校と地域とのつながり】

**【研究内容1】～教材化や単元構成の工夫～**

**地域素材を活用した教育実践の積み上げ**

校区の人・もの・ことを効果的に活用した教育活動



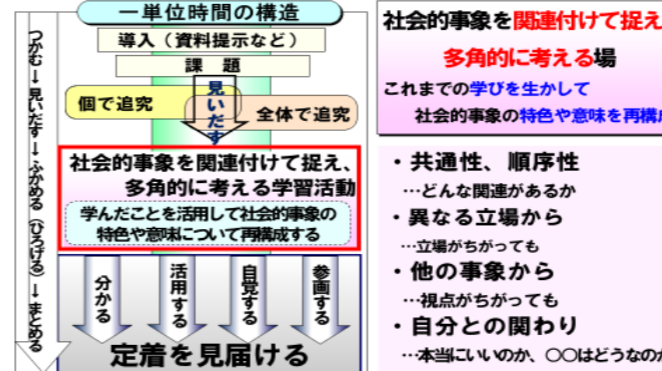
**岐阜小学校がもつ地域のよさを認識**

**→地域へのあこがれや誇りの育成へ**

【図表②：地域の人的・物的財産を生かした教材開発】

**【研究内容2】学習活動の工夫**

(1) 社会的事象を関連付けて捉え、多角的に考える学習活動の設定



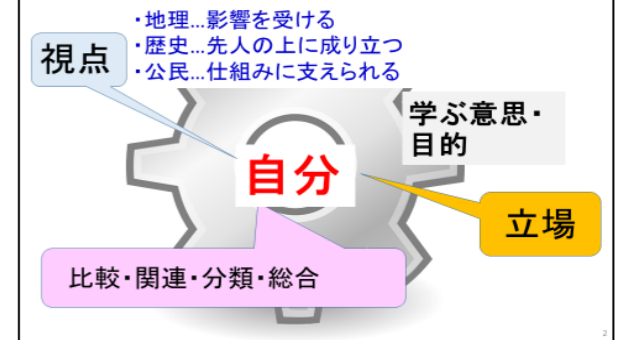
【図表③：1単位時間の授業モデル】



【写真③、④：4年生の防災の授業で、水防団長さんの話を聞いて仲間と共に大雨が予想されるときに自分たちの行動について議論している様子】

**社会的事象を「自分のこと」として捉える**

～「自分のこと」として考えるために必要な要素～



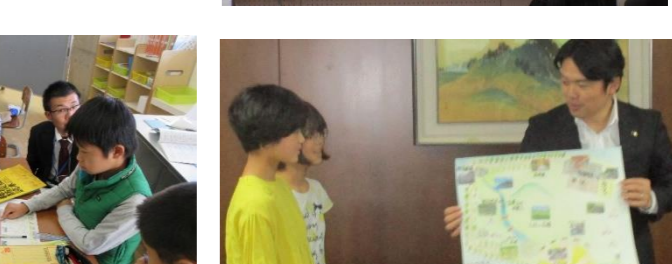
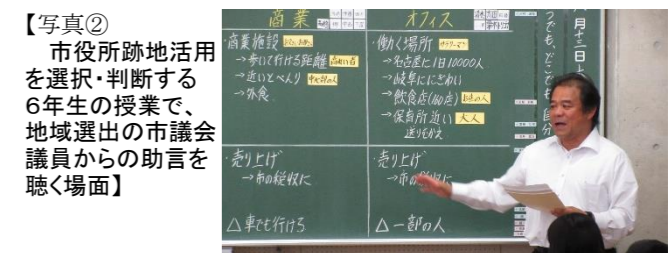
【図表④：「自分のこと」として考えるために必要な要素の関係を示す模式図】

**社会的事象を「自分のこと」として捉える**

～「自分のこと」として考えるために必要な要素～



【図表⑤：「自分のこと」として社会と関わる関係を示した模式図】



【写真⑤：岐阜市長へ岐阜小6年生が考えた市役所跡地活用案を説明する様子】